

日语

2级能力考试

对策与模拟试题

读解 · 语法部分

(第二版)

主 编/赵仲明

副主编/汪 平 陈 娟 雷国山



华东理工大学出版社

EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

日语

2级能力考试

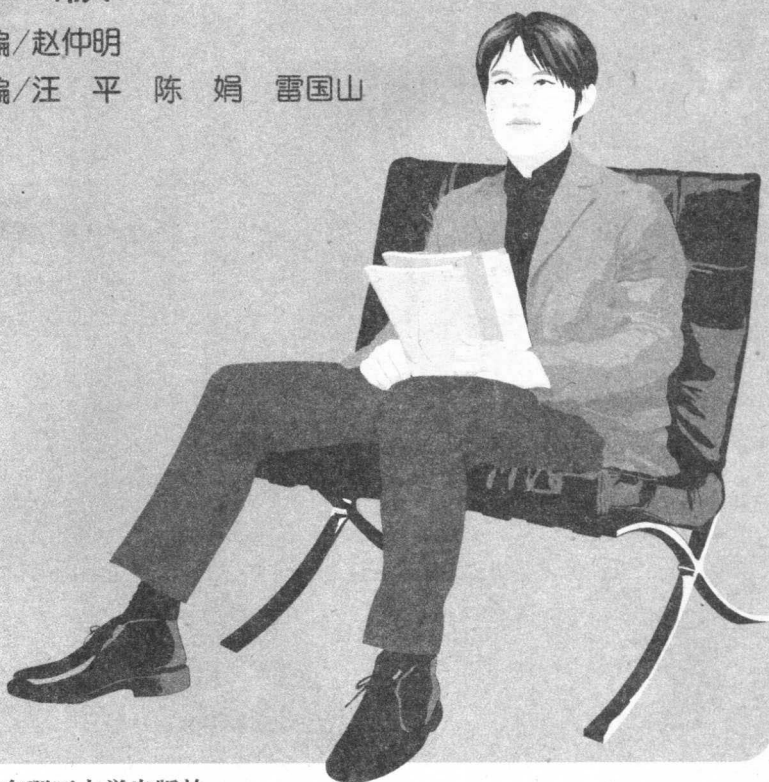
对策与模拟试题

读解·语法部分

(第二版)

主 编/赵仲明

副主编/汪 平 陈 娟 雷国山



华东理工大学出版社

EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

日本语 2 级能力考试对策与模拟试题 读解·语法部分/赵仲明主编. —2 版. —上海: 华东理工大学出版社, 2005. 1

ISBN 7-5628-1633-6

I. 日... II. 赵... III. 日语-语法-水平考试-自学参考资料 IV. H360.42

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2004)第 139408 号

日本语 2 级能力考试对策与模拟试题

读解·语法部分

(第二版)

主 编 赵仲明

副主编 汪 平 陈 娟 雷国山

出版	华东理工大学出版社	开本	787×960 1/16
社址	上海市梅陇路 130 号	印张	13
邮编	200237	字数	268 千字
电话	(021)64250306	版次	2001 年 8 月第 1 版
网址	www.hdlgpress.com.cn	版次	2005 年 1 月第 2 版
发行	新华书店上海发行所	印次	2005 年 1 月第 1 次
印刷	上海崇明裕安印刷厂	印数	11 031—19 080 册

ISBN 7-5628-1633-6/H·438

定价: 18.00 元

前言

《日语2级能力考试对策与模拟试题》(读解和语法部分)是根据日本国际教育基金和日本国际教育协会出版的《日语能力试验出题基准》(凡人社1994)要求编制而成的练习和模拟试题集。《日语能力试验》在各种日语能力考试中具有权威性,考生的成绩被认为在一定程度上代表了从事日语学习和研究的水平,因此受到广泛的重视。

如何来提高自己的日语水平、如何在日语能力考试中获得理想的成绩,这是每一个学习日语的人所共同关心的问题。就编者自身的体会而言,一个重要的途径就是广泛阅读和大量积累,培养自己对日语的感受性。在中国国内学习日语自然很难获得如同在日本留学那样的理想的语言环境,因此,阅读就成了一种极其重要的手段。俗话说“熟读唐诗三百首、不会作诗也会吟”,当你在阅读了大量的文章之后,你会对很多的词汇运用和语法现象自然而然地产生直觉的感悟,对日语文章的特点——如:日语文章惯用的技巧、日语文章中常见的逻辑关系等等——都会有不同程度的把握,在此基础上同时提高对文章内容的理解力。

对一些急需参加日语能力考试的学习者来说,除了平时的积累之外,掌握一定的考试技巧也是很有必要的。所谓技巧无非是通过阅读的分析训练,掌握一些考试题型,增加临场发挥的心理稳定性。因此,本书有针对性地选择了与日语能力(2级)测试水准相适应的文章和语法,并在后面部分附上了练习题以供考试训练之用。考虑到日语能力考试每年出题的难易度不尽相同,在文章和语法内容的选择上略高于2级能力所要求的平均水平,目的在于让读者通过本书习题的训练,在考场上真正能够得以游刃有余。

本书的出题形式完全采用了日语能力(2级)考试的形式,在编排上则由易向难、由浅入深。

读解:所选篇目包括短、中、长文,既有记叙文、评论,也有散文、故事等,让读者尽可能多地接触到各种体裁、题材的日语文章。试题从一篇一问到一篇数问不等,包含了日语能力(2级)考试的所有类型的问题。

语法:归纳了参加日语能力(2级)考试应该掌握的全部语法,为每个语法条目加上了应用实例,以使读者对每一个语法的运用产生感性认识。最后附加了临场模拟试卷,为学习者实际测试语法的掌握情况提供方便。

本书为了便于阅读,读解部分的每篇文章的汉字上都加注了假名读音。在学习完本书之后,读者除了在阅读理解上会有长足的进步之外,还能获得一个意想不到的收获,那就是,在不经意之中你的单词量有了大幅度地提高,远远超出每天死记硬背单词所能达到的效果,这就是“潜移默化”的作用,当

然别忘了“持之以恒”四个字。

本书的编辑和出题人员均为具有丰富教学经验和考试指导经验的专业日语教师,出题具有很强的针对性和实用性,相信每一个读者在学习本书之后都能获得长足的进步。

最后,祝愿每一位读者学习顺利,考试获得圆满成功。

编 者

目録

Part I 読解部分

題目类型	(1)
1 神と仏	(4)
2 小記事	(5)
3 西欧の陰鬱	(8)
4 この親にしてこの子あり	(9)
5 なぜか寂しくふるさとの自然	(10)
6 ビルマの竖琴	(12)
7 狼と暮らしていた子供	(14)
8 山頭火と歩く	(15)
9 不思議	(17)
10 一球入魂ひと休み	(19)
11 壺算	(21)
12 こんな本みつけた	(23)
13 折る刃式カッターナイフ	(25)
14 イギリス病について	(27)
15 子供のワールド	(30)
16 学力低下、予備校テストで裏付け	(32)
17 学級崩壊と無縁だった	(34)
18 口癖は、品の悪いことするな	(36)
19 各校、個性出す好機に	(39)
20 梗概を書く	(42)
21 物流リストラ 日本に合うか	(45)
22 言葉と創造性	(47)
23 言葉と人間関係(抜粋)	(50)
24 市場部門と非市場部門	(52)
25 世代間対立を越えて	(55)
26 情報と事実	(58)
27 言葉と生活	(60)
28 株投資の戦略と戦術を重視しましょう	(63)

目录

29	西洋の衝撃と日本	(65)
30	自然のゆらぎと仲良くしよう	(68)
31	ものまね——しぐさの日本文化	(72)
32	大切な個人差への理解	(75)
33	文化と環境	(79)
34	サクラ	(83)
35	日本人の心情のあり方	(86)
	读解部分答案	(89)

Part II 语法部分

	题目类型	(92)
	模拟試験(1)	(162)
	模拟試験(2)	(175)
	模拟試験(3)	(189)
	语法部分答案	(198)

Part I

読解部分

題目类型

根据以往的日语2级能力考试读解部分试题的出题情况,大致归纳起来出题主要有以下6个类型:

1. 说明

说明文章中没有明确交代的部分。

【例】

寒い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、先日はたいへんお世話になりました、ありがとうございました。あれから京都、奈良をまわり、昨晚帰宅いたしました。おかげさまでとても楽しい旅行ができました。旅行中の写真ができましたらお送りいたします。お体をお大切に。

【問い】これはだれに送った手紙と思われますか。

1. 家で待っている両親への手紙。
2. 職場で待っている先輩への手紙。
3. 一緒に旅行してきた友人への手紙。
4. 旅行中に訪問した家への手紙。

(1997年日语能力考试2级读解试题)

2. 接续关系

根据前后文的内容选择适当的接续词。

【例】

(略)このような生物依存の生活、ついこの間まで——三、四十年前ですが、それは人類の歴史の中ではこの間です——そうした。近年、石油を材料にしたプラスチックが生まれ、合成繊維が安価で大量に生産され、化学肥料が合成されるようになり、私たちの生活は急速に生物離れしました。そのために、最初に書いたような豊かさが生まれたのは確かです。

(⑦),生物離れしたためのマイナスも少なくありません。それが、やはり自然とうまくマッチした形で、できれば生物をもう少し上手に利用したほうがよいのではないかという気持ちを生んだわけです。もう一度生物技術を見直そうということ

です。

【問い】(⑦)に入る最も適当な語を一つ選びなさい。

1. しかも。
2. そこで。
3. けれども。
4. したがって。

(1995 年日语能力考试 2 级读解试题)

3. 指示关系

根据前后文的内容回答指示词的具体内容。

【例】

仕事で疲れ切って、家ではごろごろしてテレビばかりを見ている父親はあまり存在感がない、まるで透明人間みたいだ、という子の文章がありました。

これ①ではいけない。子どもたちに、父親が働いている姿を見せたらどうか。そういう意見もあって、ある母親は子どもをつれて、父親が働く工場へいくのです。(略)

問 1 ①「これ」は、何を指すか。

1. 父親が家でテレビばかり見ていること。
2. 父親が仕事で疲れて切っていること。
3. 子どもが父親の存在を感じないこと。
4. 子どもが父親の働く工場へいくこと。

(1996 年日语能力考试 2 级读解试题)

4. 推測

对文章中人物的行为、发生的事情的原因以及理由的推测。

【例】

よく知っている人が遠くに見えたとする。遠ければ遠いほど、その人は小さく見える。これはだれでもわかっていることである。が、もし、その人が五円玉の穴の中に収まるほどにしか見えなくても、頭の中では身長をちゃんと思ひ浮かべているのがふつうである。五円玉の穴の中に収まるくらい小さくなってしまったとは思わないのである。小さく見えるということで距離を感じ、頭の中で元の大きさにちかづけて解釈しているのである。人に限られず、道の幅にしても四角や丸の形にしても、それをどんな角度から見ていたとしても、元の大きさ、形を感じるという習慣がついているのである。

【問い】「五円玉の穴の中に収まるくらい小さくなってしまったとは思わない」とあるが、それはなぜか。

1. いろいろな角度から見るから。

2. 元の大きさを思い浮かべるから。
3. その人がよく知っている人だから。
4. 元の大きさがわからないから。

(1996 年日语能力考试 2 级读解试题)

5. 概括

在阅读全篇文章之后对作者的意图、目的、文章的中心内容加以推测、概括。

【例】

母の日の翌日、同じ幼稚園に20年間続いて、幼児たちに母親の顔を書いてもらっているある児童心理学者が、「子どもたちの描く絵に、最近二つの変化が現われた——目尻が釣り上がり、口が大きくなってきた」と言っていました。

子どもは正直です。母親の顔から笑顔が消えて、子どもを睨みつけ、大きな口を開けてガミガミと怒鳴りつける母親の顔が見えてくるようです。

【問い】この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

1. 最近の母親は子どもをしかることが多くなった。
2. 最近の母親は以前に比べて口が大きくなった。
3. 最近の子どもは母親の顔の絵が上手になった。
4. 最近の子どもは以前に比べて正直になった。

(1995 年日语能力考试 2 级读解试题)

6. 综合

考试的出题形式由一题一问到一题数问不等，所以，几种类型的题目也会同时出现在试题中，以上 5 个种类的题目中有一些就是从综合题里选择出来的。

1 神と仏

ふつうわれわれの常識^{じょうしき}では、「神」は神社^{かみ じんじゃ}に祭^{まつ}られ、「仏」は寺^{ほとけ}に安置^{てら あんち}されることになっている。ところが、一般^{いっぱん}の家^{いえ}の中では神棚^{なか かみだな}と仏壇^{ぶつだん}が同じ家^{おな}の中^{いえ}、同じ空間^{なか}の中^{くうかん}にかざられ、そして祀^{まつ}られている。

だから神社^{じんじゃ}や寺^{てら}は「神」や「仏」の専門店^{かみ ほとけ}であり、それに対して一般^{せんもんてん}の家^{たい}はむしろ「神」^{かみ}と「仏」^{ほとけ}のスーパーであるといえないこともない。

(山折哲雄『神と仏——日本人の宗教観』による)

【問い】日本人の宗教信仰はどうなのか。

1. 国民全体が神道を信じている。
2. 神道と仏教の両方を信仰しているのが多い。
3. ほとんどは仏教を信じている。
4. ほとんどはキリスト教を信じている。

2 小記事

(1)

なんと学生たちの前で講義することになった。「初講義」の第一印象は、二十歳前後の子達は存在しているだけで輝いて見えるということだった。世間では元気がないなんて言われているのが不思議に思えてくる。でも、それ以上に驚いたのは彼らが持つ感応力の素晴らしさ。青春時代の回想を語って聞かせるうちに、私は自分自身が癒されていくのを感じた。子供たちの魂は、きっと語る者を癒す力を持っている。

(田口ランディ「学生のみなさま、ありがとう」による)

【問い】「世間では元気がないなんて言われているのが不思議に思えてくる。」とあるが、なぜ作者が「不思議」だと思うか。

1. 世間のことが知らないからだ。
2. 大人が持っていない子供たちの感応力を感じたからだ。
3. 作者自身がいつも元気だからだ。
4. 作者が自分の青春時代を思い出したからだ。

(2)

アメリカでは、企業が従業員を採用する際に人種、国籍、年齢、男女、宗教などによる差別を行わないという不文律^①がある。その代わり、成績が悪ければいつ首を切られても文句は言えない。そこには、移民の集合体であるアメリカが作ってきた共通言語としてのビジネスの方法論がある。文化の相違ではなく、方法論であれば、これからの時代に日本の企業が学べることは多いのではないだろうか。

(「グローバルな時代の企業の条件とは」Japan Mail Mediaによる)

【問い】「成績が悪ければいつ首を切られても文句は言えない。」とあるが、どうい

① 不文律：文字・文章に記されていないこと。

意味か。

1. 学校の成績が悪かったら会社に採用されなくても文句は言えない。
2. 会社の試験に成績が悪かったら首を切られても文句は言えない。
3. 会社で働いて、業績がなければいつ仕事をやめさせられても仕方ない。
4. 成績が悪ければいい仕事を与えられなくても文句は言えない。

(3)

この1年間、本当にたくさんのメールをいただいて、いろいろな方の人生の断片を読ませてもらい、感じたことがある。なんと多くの人が「いじめ」を体験しているのだろう…ということだ。「いじめ」というものが、世紀末に蔓延するかなり多くのトラブル①の「温床」^{おんしょう}なのでは、そう思うに至って、実は自分が「いじめ」とは何なのかについてあまり知らないことに気がついた。

(田ロランディ「いじめってなんだろう?」による)

【問い】「いろいろな方の人生の断片を読ませてもらい」とあるが、どういう意味か。

1. いろいろな人の書いた人生小説を読んだ。
2. いろいろな人の人生について書かれた書物を断片的に読んだ。
3. いろいろな人のおくってきたメールを読んで、それらの人々の生活や考え方などについて部分的に知ることができた。
4. いろいろな人の壊れた人生を読んだ。

(4)

日本に来て3年目のころ、広島^{ひろしま}の山村^{さんそん}のお祭りに呼ばれ、歌いに行きました。一人でおお^{おお}いしやう^{いしやう}バッグ^{かか}を抱え、夜行バス^{やこう}を降りて途方^{とほう}に暮れていた私^{わたし}に、親切^{しんせつ}に教えてくれたおばあちゃん。乗りか^の換^かえた後、停留所^{ていりゅうじょ}に着いたとき、わざわざ降りて尋ねてくれたバスの運転手^{うんでんしゅ}さん。それから客席^{きやくせき}に集まった町^{まち}の人たち^{ひと}の、東京^{とうきょう}の人たちと全く^{まったく}違う暖か^{ちが}さが、かたくなに閉ざしていた私の扉^とを開けてくださいました。

(梅蘭：梅蘭の日本見聞録(2)「広島^{ひろしま}の山村^{さんそん}出会った人々」による)

【問い】「夜行バスを降りて途方に暮れていた私」とあるが、どういう意味か。

1. 夜行バスを降りたのは夜だった。
2. 夜行バスを降りて道がわからなくなった。

① トラブル：もめごと。いざこざ。紛争。

3. 夜行バスがどこに行ったのかはわからなくなった。

4. 乗り換える場所がわからなかった。

(5)

自動車メーカーのマツダは4月1日から、営業拠点を東京から広島の本社に移転する。米国フォードからきたミラー社長が決断した良いニュースだ。社内では「フォードの役員は現場の声を大切にする」といわれる。日本の経営こそが「現場の声を大切にしてきた」と信じられてきただけに、驚きだ。地方から世界的に発想するのは、そんなに難しくない。地域に魅力ある企業があれば、世界の目がその地方にフォーカス^①されるという効果もある。

(伴 武澄「広島から世界を見るようになったマツダ」による)

【問い】「フォードの役員は現場の声を大切にする」とあるが、「現場の声」は何を指すか。

1. 生産現場で働いている人たちからの意見や主張など。
2. 生産現場で働いている人の話している声。
3. 生産現場の機械の音。
4. 役員が生産者と話している時の声。

(6)

患者の自己負担を増やすことで、国民医療費の伸びを抑えようとした政府の目論見が外れつつある。1998年の医療費は前年比2.0%増が見込まれ、健保組合や国保の追加負担増となりそうだ。これは、医療費削減に協力する気がない医師が多いことと、国民一人一人が病気を減らしていく努力をするという意識改革が実施されていないことが原因だろう。

(津村喬「減らない医療費：病気を減らす多様な工夫を」による)

【問い】「1998年の医療費は前年比2.0%増が見込まれ」とあるが、どういう意味か。

1. 1998年の医療費は前年比2.0%増ということが予測された。
2. 1998年の医療費は前年比2.0%増ということが決められた。
3. 1998年の医療費は前年比2.0%増ということが含まれた。
4. 1998年の医療費は前年比2.0%増ということが予測外れだった。

① フォーカス：焦点。主要点。まと。ピント。

3 西欧の陰鬱

西欧の陰鬱とは、直接には日光が乏しいことである。それは特に冬の半年において顕著に見られる。高緯度であるために昼間が非常に短いのが第一の原因である。十二月ごろには、たとえ晴れた日であっても、三時ごろにはもう夕方らしくなる。しかるにその晴れた日が非常に少なく、暗い曇天の日が続くのである。自分がかつて五月にロンドンを訪れて、その冬をそこに送った宮島清君に逢い、①ロンドンもなかなか好い天気ではないかと言って怒られたことがある。こういう晴天の日に逢うためにどれだけ永い、鬱陶しい冬の日に堪えて来たかを知りもしないで、たまたま五月の晴れた日にロンドンへ飛び込んで来て、のんきなことを言うな、というのである。それほどに冬の陰鬱は日本人にとって苦しい。雲の深い日には一日じゅう電気の下でなければ、書物を読むこともできない。美術館では大きい窓の側に席を占めてもなお字を見るに不便を感じずる。つまり夜が明けたという感じがないのである。

(和辻哲郎著「風土」による)

問1 ①「ロンドンもなかなか好い天気ではないかと言って怒られたことがある」とあるが、怒ったのは誰か。

1. 筆者自身。
2. 宮島清君。
3. ロンドンの人。
4. ロンドンにいる日本人。

問2 筆者の気持ちを最もあらしているのは次のどれか。

1. 西欧の昼間が非常に短い。
2. 西欧は日光が乏しくていつも鬱陶しい天気である。
3. 西欧の冬の陰鬱は日本人にとって大変苦しい。
4. 西欧の昼間でも夜が明けたという感じがしない。

4 この親にしてこの子あり

ある晩、おやじさんが家に帰ってくる（ A ）、息子が物干しざおを持って、さかんに上のほうをつついています。

「おまえ、何をしているんだ、そんな長いものを振り回したりして。」

「なに、星があんまりきれいだから、二つ三つたたき落とそうと思ってね。でも、届きそうでいて、なかなか届かないんだ。ちょうどいいところへ帰って来てくれた。ちょっと肩ぐるまをしてくれない?」

おやじは、（ B ）あきれたという顔で、

「ばかだな、おまえ。星なんていうものはずっと高い所にあるんだよ。肩ぐるまをして、さおを伸ばしたぐらいで、星まで届くとでも思うかい? あきれかえって、ものが言えない。（ C ）取りたかったら、屋根に上がれ。頭を使うんだよ、頭を。」

「なるほど、（ D ）父ちゃんだ。屋根とは気がつかなかったなあ。」

（早稲田大学『日本語教科書』による）

問1 （ A ）～（ D ）にそれぞれ何を入れたらいいか、次に上げた言葉から選きなさい。

- | | | | |
|-----------|---------|----------|---------|
| A 1. から | 2. が | 3. ので | 4. と |
| B 1. いかにも | 2. それほど | 3. はっきり | 4. しかし |
| C 1. たいへん | 2. とても | 3. どうしても | 4. いかにも |
| D 1. さすが | 2. いかにも | 3. たいへん | 4. とても |

問2 本文を読んで次の文の中でどれが一番正しいと思うか。

1. 父親も息子も頭のいい人。
2. 父親は息子より頭がいい。
3. 父親も息子も頭がおかしい。
4. 父親のほうは息子よりまだいいようだ。

5 なぜか寂しくふるさとの自然

山々は色付き始めていた。まるで童話に出てくるような丸い山、裾には細長く続く田んぼ、道から少し上った日だまりに点在する家々。これが私のふるさとである。車を二時間あまり運転して母の顔を見に帰省。稲は既に収穫され、乾いた田にコンバイン^①わだちが残る。稲の切り株からは青々とした、ひこばえ^②がつんつん伸びている。ふと見ると隣で雑草が風に揺れている。減反した田だ。春に芽吹き、生い茂った雑草も今は枯れて折れ曲がり、泥色に変色している。

「オラ^③らは何十年も難儀して種まき、稲刈って、土を肥やしてきた。一回でも休めば土は衰え、よみがえらせるのは大変なのに」と母がつぶやく。①「子供だって…」、私は心の中で言った。

子供だって、春に田が青々と染まる時や、秋に稲穂が風にシャラシャラと黄金色の音をたてる時は心が満ちてきたよ。活気づく大人の声で浮き浮きとしてきたものだよ、かあちゃん。

それが今、村の子は何を感じているだろう。子供の山遊びだったキキョウ摘み、ユリ根掘り、マツタケ採りも絶えた。人も減り、医者も去った。②「豊かな自然に恵まれて…」、聞く度に心が沈むふるさとの自然である。兄が新米を車に積んでくれている。腰を曲げた母が坂道を下ってくる。

(柴田 いくよ「なぜか寂しくふるさとの自然」による)

問1 ①「子供だって…」とあるが、どういう意味か。

1. 子供でもお母さんと同じようなことを考えている。
2. 子供はお母さんの言っていることがわからない。

- ① コンバイン：収穫機。
- ② ひこばえ：切った草木の根や株からはえた芽。
- ③ おら：自称。